



# ふねあいのひろば

第39号



新竹市欣蕾舞踊団との記念撮影 新竹市主催交流夕食会

## ごあいさつ

会員の皆様におかれましては、平素より当協議会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

国内外の様々な交流の“重し”となっていた新型コロナウイルスも、感染症法上での位置づけが5類に移行したことで、国際交流の活動はいよいよ本格化してまいりました。

昨年は、新竹市との友好交流協定締結20周年の記念となる年を迎えました。9月に親善訪問団が6年ぶりに来岡し、2日間の滞在ではありましたが、20周年記念式典をはじめ、歓迎夕食会では両市出席者一同でうらじゃを踊り、喜色満面でご祝いの年を祝いました。また、11月には岡山市から市民友好親善訪問団を派遣し、中華大学では学生との交流会に参加するなど市民ぐるみの友好親善を深めることができました。

令和4年に姉妹都市縁組50周年を迎えたプロヴディフ市との交流では、昨年5月に市長をはじめとした訪問団をお迎えいたしました。同市から寄贈されたフリスト・ボテフ像の前での式典のほか、小学校での給食交流などを通して、あらためて両市の絆を確かめる機会となったと実感しました。富川市との交流では、10月に岡山市民友好親善訪韓団を派遣し、両市の友好を記念する石碑除幕式への招待などで歓待していただくとともに、岡山の特産品を紹介するフルーツフェアも開催し、充実した訪問となりました。

対面での交流が可能となったことから、4年ぶりに子ども海外派遣を実施することができ、プロヴディフ市、洛陽市、富川市、新竹市、グアム準州に40名の中学生を派遣しました。本事業では過去最高の応募者数となり、皆さんがこの交流を待ち望んでいたことを実感しました。岡山市を代表して各地を訪問した子どもたちは、ホストファミリーと対面したその日から親交を深めることができましたようです。また、今回派遣はできませんでしたが、サンノゼ市とウマティラインディアン居留区部族連合とはオンラインで子ども同士の交流を行いました。

コロナの影響で一時的に減少したものの、岡山市の外国人人口は再び増加に転じ、過去最高を更新しています。国や地域、留学や就労といった目的など、社会的背景は人それぞれですが、今後も増加が見込まれる外国人住民が地域で生活するなかで困ることがないように、最低限の日本語能力を習得できる環境整備を目的に、令和5年度より「地域日本語教育の総合的な体制づくり」を開始しました。今後、5年計画で日本語教育の環境整備を進めていきます。

今年は友好都市から子どもたちを迎えてのホームステイ事業など、様々な国際交流事業が行われる予定です。当協議会の活動によって相互理解と友好親善の促進につながるよう努めてまいりますので、今後とも皆様方のより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



会長 松田 久